

愛知の博物館

No.51



帝国ホテル中央玄関（博物館明治村）

アメリカが生んだ20世紀屈指の建築家フランク・ロイド・ライトの代表作で、大正12年に完成。その年9月1日、関東大震災発生の日開館した。

平安朝の寝殿造りにも擬せられ、日本建築に相通ずる姿とも評されるが、ふんだんに使われている大谷石の細かい彫刻から受ける印象は、アメリカの古代文明マヤ王朝のデザインにも似て、異国情緒豊かな神秘性を漂わす。レンガに抉られた透しから漏れ来る光、切子細工のような天井灯の明り、それらが一種宝石のように輝いている。

（財団法人博物館明治村 次長 西尾雅敏）

目 次

- 平成2年度愛知県博物館協会総会報告 2
- 平成2年度東海地区博物館連絡協議会総会について 4
- 新規加盟館紹介 5

平成 2 年度 愛知県博物館協会総会報告

平成 2 年度愛知県博物館協会の総会が、5月17日(木)名古屋市千種区覚王山通り8-19の「王山会館」で開催され、参加館53館、89人の出席がありました。以下、総会の概要を御報告します。

1. 会長挨拶……亀井誠治氏(愛知県陶磁資料館館長)
2. 来賓挨拶……鈴木隆俊氏(愛知県教育委員会社会教育部長)
3. 表彰……前熱田神宮宝物館館長 山本文彦氏
前名古屋市博物館総務課長高田伸氏
名古屋市博物館技師 伊藤 洋氏
博物館明治村特別嘱員 伊佐治勉氏
日本モンキーセンター係長池上干城氏
以上功労賞
前愛知県博物館協会会长山田五夫氏
感謝状



4. 新規加盟館紹介

- 醸造伝承館
- 真清田神社宝物館
- イヅマン温故倉

5. 議題(座長 愛知県陶磁資料館館長亀井誠治氏)

- (1) 平成元年度事業報告及び決算報告について
 - (イ) 研修会の実施
 - (A) 博物館等職員研修会(平成元年9月7日~8日)
豊橋勤労福祉センター
 - (B) 歴史民俗部門研修会(平成元年7月27日)
東海銀行貨幣資料館
 - (C) 美術館部門研修会(平成2年3月2日)
昭和美術館
 - (D) 自然科学部門研修会(平成2年3月9日)
名古屋市科学館
 - (ロ) 東海地区博物館連絡協議会平成元年度総会参加
平成元年6月13日~14日山梨県富士吉田市
 - (ハ) 第14回東海三県博物館協会交流研修会参加
平成元年11月29日~30日三重県伊勢市

(イ) 表彰の実施

功労賞 2 名、感謝状 1 名 (氏名略)

(ロ) 印刷物の作成配布

- (A) 「ガイドブックー愛知の博物館」の配布
- (B) 「おでかけガイドー愛知の博物館」の発行
- (C) 「東西南北」の発行、No176~179
- (D) 協会報「愛知の博物館」の発行、No48.49
- (E) 加盟館(園)職員録の発行

(ハ) 会議

- (A) 総会 1 回、(B) 理事会 1 回、(C) 実行委員会 12 回
 - (ト) 平成元年度新規加盟館の報告、8 館(館名略)
 - (チ) 平成元年度収支報告(監査報告昭和美術館)
- 以上説明の後、審議し、いずれも承認されました。

(2) 役員改選について

別表の如く任期満了に伴い役員改選の提案と説明がされ、審議が行われ、案通り承認されました。

(3) 平成 2 年度事業計画及び予算について

(イ) 事業

(A) 県内研修会

愛知県教育委員会と共に博物館関係施設に勤務する職員を対象として行う。

(B) 部門別研修会

美術部門、歴史民俗部門、自然科学部門、

- (C) 平成 2 年度東海地区博物館連絡協議会総会
6 月 12 日 ~ 13 日、神奈川県横浜市
- (D) 第15回東海三県博物館協会交流研修会
10 月 4 日 ~ 5 日、愛知県美浜町

(E) 表彰(前記、3. のとおり)

(F) 印刷物の発行、配布

協会報「愛知の博物館」、「東西南北」「おでかけガイド」、「ガイドマップ」

(ハ) 会議

(A) 総会 1 回、理事会 2 回、実行委員会 12 回、

(ト) 平成 2 年度収支予算

以上、事務局説明の後、審議が行われ、いずれも承認されました。

(4) 会費の改定について

平成 3 年度より改定(1 口 8,000 円を 10,000 円に)します。事務局説明後、審議が行われ、承認されました。

議事終了後、企業博物館館長として様々なアイディアと工夫をもって、ユニークな活動をして各方面から注目されている U C C コーヒー博物館館長諸岡博熊氏を講師に「企業博物館の現状と問題点」と題した講演会が開催されました。講演は氏の経験を踏まえて、広く博物館活動の在り方を判り易い例として企業博物館を取り上げ、問題提起されたものといえます。



概要は、「企業の文化活動は様々な分野に於いて活躍している。冠イベントもそうであろうし、博覧会への参加もその一つである。博物館や美術館は恒久的な施設であり活動の場である。現在、情報化社会となって消費者は物が足りるだけで満足しなくなり、物を選択する時代へと変化しつつある。それは技術の発展と経済社会の変化が掛け合わされ、国際化も一端を担っているであろう。そこで行動されていることは果して正しい活動といえるものであろうか。

企業博物館の現状について、展示及び目的は企業色の強いものになっている。また、何の関係もなしに、目玉展示品があったりしている。ここに見せるという一方的なものになり、サービスの不在、経営思想の欠落が窺える。これは、人材の不足や展示等をより良く見せたり、学んだり、遊ぶためのトータルプロデューサーの不在に拠るもので、広くミュージアムアイデンティティーの欠如にもつながる。

以上のこととは問題点とも共通するものである。表示板や文字、看板、案内などがばらばらで統一性がない。説明や展示等が専門的になり、子供達が楽しむものにならない。人と物との対話や関係が一方的であり、沈黙の不満者を作り出すこととなる。このことは企業の文化活動にも支障をきたし、目的からもはずれることになる。この為、サービスの向上、外部に働きかけ博物館へ人をまねき寄せる努力をすることが肝要になる。対人交流を活発にさせ楽しめる館にするため、コンパニオンの育生もその一つであろうし、博物館のショッピング化も対策案である。

最後に、望まれる博物館として、今は第三世代の博物館を目指すべきであろう。明治時代の博覧会を第一世代、戦後の博物館法制定以後を第二世代と考えて名付け、提唱した。今後は、教育、学習、普及といった今までの常套句を取り払い、楽しく遊べる施設にして行くべきであろうと提言した。つまり、知的レジャーランドである。約1時間半に亘って熱心に講演されました。

午後5時より、懇親会に移り各館の情報交換及び歓談がなされ、午後6時半閉会となりました。

(文責 実行委員 熱田神宮宝物館 野村辰美)

愛知県博物館協会新役員名簿

平成2・3年度

役職名	館(園)名	代表者名	備考
理事	愛知県陶磁資料館	館長 亀井誠治	会長
〃	熱田神宮宝物館	館長 岡地幸雄	副会長
〃	岡崎市郷土館	館長 板倉幸治	
〃	名古屋市科学館	館長 岡田博	
〃	名古屋市博物館	館長 清水武	
〃	徳川美術館	館長 徳川義宣	
〃	日本モンキーセンター	所長 河合雅雄	
〃	博物館明治村	館長 関野克	
〃	大府市歴史民俗資料館	館長 游井五一	
〃	豊橋市自然史博物館	館長 加藤潤二	
〃	一宮市博物館	館長 岩野見司	
〃	でんきの科学館	館長 寺沢安正	
〃	知立市歴史民俗資料館	館長 羽佐田銀弘	
監事	愛知県文化会館美術館	館長 加藤通孝	
〃	昭和美術館	館長 柳沢幸輝	

役員改選に伴う実行委員名簿

平成2・3年度

館(園)名	委員氏名	備考
愛知県陶磁資料館	浅田員由	(会長館)
熱田神宮宝物館	野村辰美	(副会長館)
岡崎市郷土館	杉浦健	(理事館)
名古屋市科学館	三輪克	(〃)
名古屋市博物館	水谷栄太郎	(〃)
徳川美術館	四辻秀紀	(〃)
日本モンキーセンター	水野礼子	(〃)
博物館明治村	佐野勲	(〃)
大府市歴史民俗資料館	小島美智子	(〃)
豊橋市自然史博物館	家田健吾	(〃)
一宮市博物館	土本典生	(〃)
でんきの科学館	三上義弘	(〃)
知立市歴史民俗資料館	岡本茂史	(〃)
愛知県文化会館美術館	木本文平	(監事館)
昭和美術館	服部昭義	(〃)

愛知県博物館協会事務局

愛知県陶磁資料館	竹内実	管理部長
〃	杉浦彰治	庶務課長
〃	柴原知幸	庶務課課長補佐
〃	原誠	庶務課主査

平成2年度 東海地区博物館連絡協議会 総会について

横浜は古くて新しい港町です。130年前に開港し我国の文明開化の玄関口となり、昨年の市制100周年を記念した横浜博の跡地を中心に21世紀に向かって大きく飛躍しようとしています。

さて、平成2年度の総会は横浜市西区みなとみらい3-4-1横浜美術館において、6月12日(火)から13日(水)に開催されましたので、その概要を報告します。

第1日目の総会では、まず会長である岩野神奈川県立博物館館長のあいさつの後、来賓の日本博物館協会の毛利専務理事、神奈川県教育委員会の今福社会教育部長のあいさつがありました。次いで横浜美術館の寺門事務局長から「みなとみらい21」についての説明があり、引き続き岐阜県の岩村町歴史資料館の樹神弘氏、山梨県の財団法人美枝きもの資料館の遠藤永太郎氏、山梨市立万力動物園の太田正氏の表彰がありました。この後議事に入り、(1)平成元年度事業・決算・監査報告、(2)平成2年度理事及び監事の選任、(3)平成2年度事業計画及び予算(案)、(4)平成3年度開催県につき事務局から説明され、審議の結果、全て承認されました。なお、平成3年度の開催県は、岐阜県となりました。

総会終了後、横浜美術館の渡辺総務部長により当美術館の施設概要説明があり、常設展示と「BAY'90バルセロナ&ヨコハマシティ・クリエーション」を鑑賞しました。当美術館は昨年3月25日横浜博と同時にオープンし、「みなとみらい21」の中心を形成するものであること、建設は横浜市が行ない、運営は横浜市からの委託により財団法人横浜市美術振興財団が運営していること、市民や子どもたちの創造活動の場を提供していること、横浜が美術発祥の地であることから特に写真の収集に力を注いでいること等が理解できました。

その後、会場を宿泊場所でもある「バルメルク横浜」(郵便貯金会館)に移して、懇親会が行なわれ、カラオケまでとび出しだいに盛り上った情報交換となりました。

第2日目は、見学ということで、まず県立神奈川近代文学館を訪ねました。ここも、いわば公立民営の形をとり、施設は県立神奈川近代文学館であるが運営は財団法人神奈川文学振興会が受託して行なっているとのことです。当日は特別展「神奈川文学散歩展—横浜文学の港—」が開催されていました。遠く古典の時代から現代にいたるまで神奈川からは多くのすぐれた文学者・芸術家が出ており、またそのゆかりの土地や建物、風景などがそれぞれの時代に数多くあることを再



認識させられました。特に今年は横浜の開港130年にあたるということで江戸末期以来、常に日本の近代化の先駆となってきた横浜をとりあげ、仮名垣魯文、北村透谷、有島武郎、生馬、里見弾、谷崎潤一郎、芥川龍之介、佐藤春夫、吉川英治、大佛次郎、獅子文六から三島由紀夫、安岡章太郎、吉行淳之介、村上龍らに至るまで文学者200余名の多種多様な魅力に富む作品を、原稿・創作ノート・初出紙誌・初版本・日記・書簡・関連する美術品の数々の展示がされ、圧倒するものがありました。

次に見学した大佛次郎記念館では、少年時代血をわかせ肉を踊らせた「鞍馬天狗」を始め多くの小説、戯曲随筆など自筆の原稿・創作ノート、また交友関係の広さを物語る書簡類などがあり、偉大な文学者と身近に触れ会ったような気持になりました。筆名は大佛次郎が鎌倉の大仏裏に住んでいたことによること、「一生の伴侣」と語るほどの愛猫家で十数匹の猫に囲まれていたことなどを知って、益々身近感を覚えました。

短かい時間の中で大佛次郎記念館に隣接する港の見える丘公園をぐるっと歩いて後髪を引かれる思いで、バスに乗り、次の見学地、三溪園へと向いました。

最後の見学地、三溪園では最初から最後まで横溝園長の案内を受ける幸に浴しました。ここ三溪園は、敷地面積174,777m²の中に数々の重要文化財を含む伝統的日本建築・大小いくつかの池から構成されています。この三溪園は、横浜市の東南部本牧海岸に添い三つの渓谷に跨って造られており、自然の山や谷をそのまま取込んだ庭園で、原家三代故富太郎氏が雅号を三溪とつけた程精魂傾けて造った名園で、また翁が美術愛好家であったことから日本美術院の俊才たちに多くの援助を与えられ、今日の日本画壇に多大な影響を与えたとのことです。短時間で通り過ぎるのを惜しみつつ、重文旧燈明寺本堂内で昼食をいただき散会しました。

最後に、今回の総会等に気を配っていただいた神奈川県博物館協会関係者の皆さんに、紙面から感謝の意を表したいと思います。

なお別記として、本年度の東海地区博物館連絡協議会の役員名簿を掲げさせていただきました。
 (文責 実行委員 でんきの科学館 三上義弘)

東海地区博物館連絡協議会役員
 (任期 2年：平成2年・3年度)

役職名	協会名	館名	職氏名
理事	岐阜県博物館協会	岐阜県博物館 内藤記念くすり博物館 飛騨民俗村	館長 伊藤秀幸 顧問 青木允夫 館長 吉川昭夫
	静岡県博物館協会	久能山東照宮博物館 東海大学海洋科学博物館 浜松市博物館	館長 松浦國男 館長 井上元男 館長 向坂潤二
	愛知県博物館協会	徳川美術館 名古屋市科学館 愛知県陶磁資料館	館長 徳川義宣 館長 岡田 博 館長 亀井誠治
	山梨県博物館協会	山梨県立美術館 信玄宝物館 富士博物館	館長 西川新次 館長 野沢公次郎 館長 井出常済
	神奈川県博物館協会	横浜市立野毛山動物園 川崎市立日本民家園 神奈川県立博物館	園長 宮崎眞吉 園長 大石照藏 館長 岩野好秀
監事	岐阜県博物館協会	郡上八幡民芸美術館	館長 松本五三
	神奈川県博物館協会	三溪園	園長 横溝壽男

新規加盟館紹介

平成元年度に当協会へ加盟されました8館の内、5館の概要をここに紹介します。

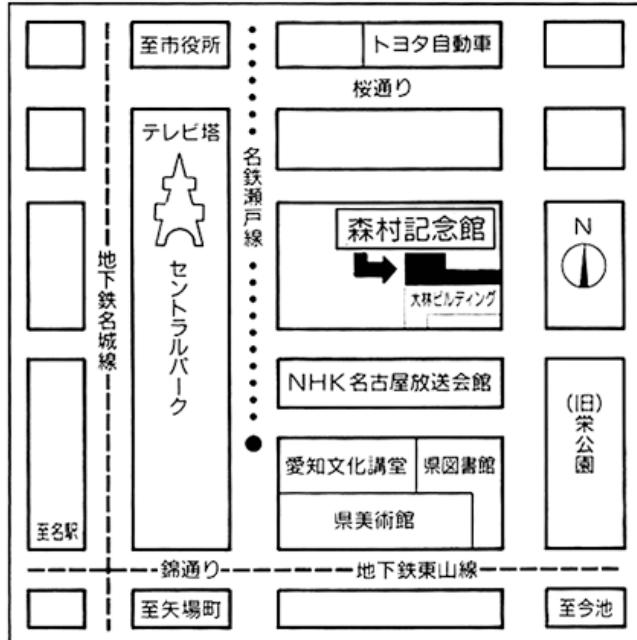
森村記念館

所在地 〒461 名古屋市東区東桜1-1018
 電話 (052) 971-0456
 交通 地下鉄 東山線栄下車、東口、徒歩3分
 地下鉄 桜通線久屋大通下車、東口徒歩3分
 NHK東側旧武平町通り藍沢証券ビル北隣
 沿革 日本画家故森村宣永の希望で設立。
 昭和63年10月開館。郷土色豊かな日本画(大和絵)を常設展示し、尾張の地方文化の保存・啓蒙に力を注ぐ一方、小グループ作品展や伝統文化の講習の場として利用されている。
 施設 鉄筋コンクリート2階建、延350m²
 展示室 2階2室100m²
 図書室他 30m²
 茶室・和室 80m²
 喫茶・ロビー 60m²
 開館 10:00~17:00
 休館日 毎週月・火曜日(祝日は除く)
 年末年始
 入館料 300円(喫茶共500円)
 特色 ○江戸時代後期より尾張地方にも町人経済が発展する中で文化発展の土壤が培われ、こ



の地方から復古大和絵派の祖が生まれた。常設展示ではこの派の祖田中訥言や浮田一蕙などその画派の系統を中心とした日本画を展示する。

- 伝統文化の継承を目的として、大和絵、書道・香道・茶道などの教室を開催。
- 古典文化と現代を結びつける場として、各市民グループ、個人の展覧・茶会に利用されている。



トヨタ博物館 TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM

所在地 〒480-11 愛知郡長久手町大字長湫字横道 41-100

電話 (0561) 63-5151

交通 ○名古屋地下鉄東山線藤ヶ丘駅より、名鉄バスにて長久手車庫下車、徒歩約5分
○東名高速名古屋I.C.より東4kmグリーンロード沿い

沿革 トヨタ博物館は、トヨタ自動車が創立50周年記念事業の一環として計画、建設されたものであり平成元年4月16日に開館し、以来、子供から大人まで幅広い層に親しまれ、1年間で約45万人の来館者を迎えた。

施設 鉄筋コンクリート造・鉄骨造 地上3階建
敷地面積 46,700m²
建築面積 4,800m²
延床面積 11,000m²

1階（サービスゾーン）3,300m²
2・3階（展示場） 7,700m²

開館 9:30~16:30(但し入館受付は16:00まで)

休館日 原則として月曜日（祝祭日の場合は翌日）および年末年始

入場料

	大人	中高生	小学生
一般入場者	1,000円	600円	400円
団体入場者 (30名以上)	800円	400円	300円
学校行事団体 先生が付き添う学校行事	800円	300円	200円

特色 ○ガソリン自動車が誕生してから約100年間をとらえ、自動車の文化・技術の発達の歴史を実車を主体（全体で110台）として体系的にわかりやすく紹介している。

○100年間の歴史を前半は19世紀末のベンツの三輪車を起点として1940年頃迄を欧米車でそしてそれ以降は、トヨダAA型（1936年）を起点として日本車で展示構成している。

○展示車は動態保存を原則としており、計画的にメンテナンスを行い、當時走行可能な状態で保存している。

○一般来館者にも楽しんでいただけるレストランやショップ等の施設も併設している。



一色地域文化広場 一色学びの館

所在地 〒444-04

幡豆郡一色町大字一色字東前新田8

電話 (0563) 72-3880

交 通 名鉄三河線「三河一色駅」下車徒歩5分

沿 革 ふれあいと文化の華咲くふるさとづくりの総合拠点として、昭和63年11月に完成し、地域の人々に広く利用されている。

この広場には、「一色学びの館」を始め「公民館」、「生きがい健康センター」や、多目的に利用できる「ふれあい広場」県や町の木のほか、めずらしいニュートンのリンゴの木やメンデル葡萄の木が植えられた「はなの木広場」、そして遊びながら学ぶことのできる「交通公園」と、心の修養の場である茶室「俱楽地庵」がある。

施 設 敷地27,600m² (図書館と共に)

鉄筋コンクリート3階建 (図書室部分は2階建) 延面積1,997m²

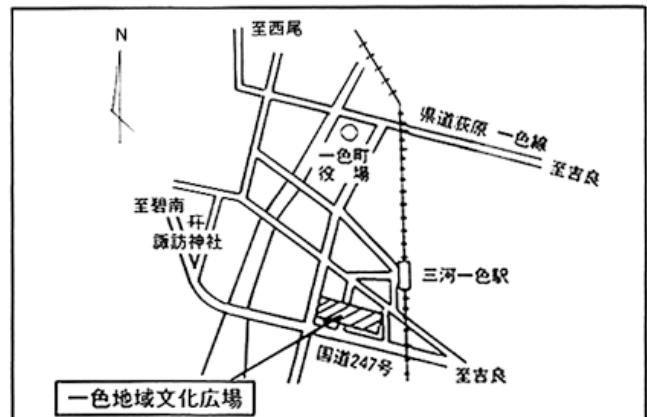
展示室 1階 206.63m²

展示室 2階 176.64m²

展示室 3階 137.67m²

特別展示室 93.5m²

収蔵庫 51m²



その他 1,331.56m²
開 館 9:00~17:00
休館日 毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始
入館料 無料
特 色 学びの館の展示室には、毎年8月26日、27日に行われる「大提灯祭り」でなじみ深い大提灯の実物大の模型（高さ10m、直径5.6m）が常設展示されています。そのほか、打瀬船の模型、貝の標本、古い生活用具などの展示やこの地方に伝わる民話も紹介されており、広く郷土の文化を学ぶことができます。

財団法人古川会 サロン&ギャラリー (仮称古川美術館)

所在地 〒460 名古屋市中区錦3-11-23 弘洋ビル1F

電話 (052) 971-1540

交 通 地下鉄栄駅①番出口より錦通りを西へ進み3つの角（木曾路あり）を右折して、最初の角を左折。駐車場2台分有。

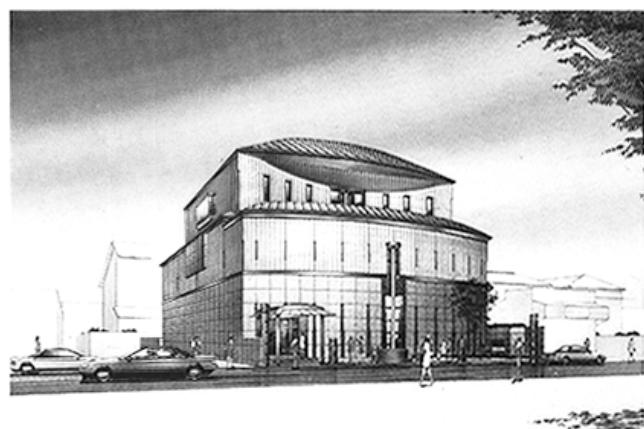
沿 革 日本ヘラルド会長古川為三郎が、長年に渡って集めた美術品を私藏することなく、広く一般の方々に親しんでいただけるようとに、昭和62年に財団法人古川会を設立。平成元年3月から、中区錦に財団法人古川会サロン&ギャラリーを開館し、所蔵品の展示公開を開始。平成3年の春には、千種区池下町に古川美術館が完成する予定（完成予想図参照）。

施 設 展示室141m²

開 館 月~金10:00~16:00 土10:00~12:00
休館日 日曜・祝日、毎月末、年末年始

入館料 無料

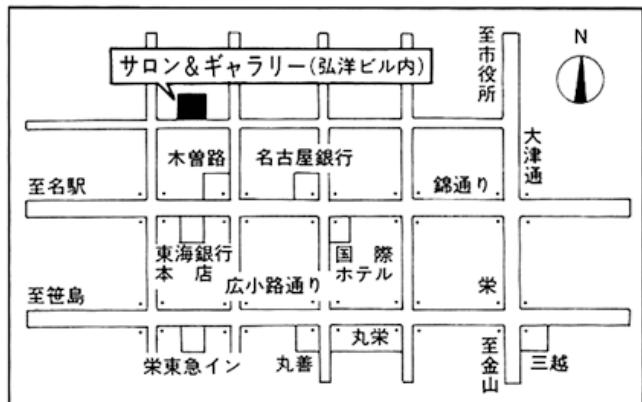
特 色 作品鑑賞の場として、また美術談義の場とし



完 成 予 想 図

て、多くの方々に活用していただけるよう、親しみやすい雰囲気づくりと、講演会、講習会などの美術館活動に努めている。所蔵品は日本美術を中心とし、日本画、油彩画、茶道具、工芸品などからなる。

主な所蔵品：横山大観〈海嘯〉、前田青邨〈薔薇〉〈風神雷神〉、片岡球子〈桜咲く富士〉、川合玉堂〈田子浦〉、安田鞆彦〈花菖蒲〉、上村松菴〈立葵〉〈燐〉、森田曠平〈立美人〉、上松淳之〈鳴〉〈汀〉、藤田嗣治〈婦人像〉、中川一政〈バラ〉〈白椿〉



知立市歴史民俗資料館 CHIRYU CITY FOLK HISTORICAL MATERIAL MUSEUM

所在地 〒472 知立市新地町番割22-2

電話 (0566) 83-1133

交 通 名鉄知立駅下車、徒歩約8分

沿革 知立市は「歴史と文化の出会う街」のキャッチフレーズが示すように長い歴史と豊かな文化を持つ街です。市民の関心も高く、生涯学習あるいは小・中学校の社会科学習の拠点として新資料館建設の要望が出され、昭和62年10月に市立図書館との複合施設として開館しました。

施 設 敷地4,950m²（図書館と共に）

鉄筋コンクリート2階建、延面積1,140.48m²

1階展示室	207.45m ²
2階展示室	172.95m ²
収蔵庫（2室・特別）	234.61m ²
その他	525.47m ²

開 館 9:00~17:00(6月~8月 9:00~18:00)

休館日 月曜日、国民の祝日

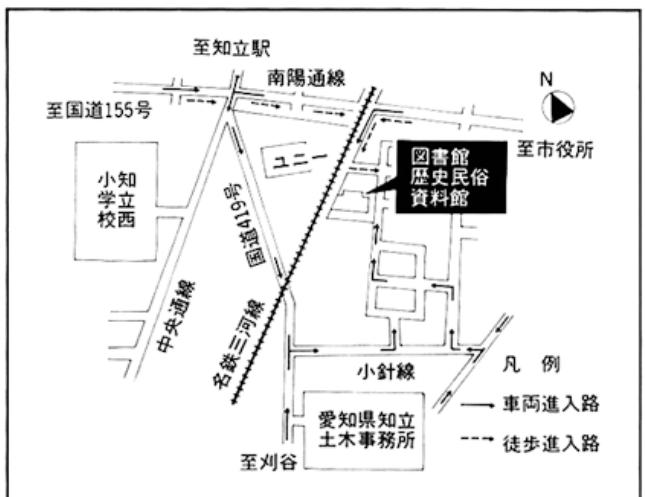
館内整理日（毎月第4金曜日）

特別整理期間（年10日以内）

年末年始（12月28日~1月4日）

入館料 無料

- 特 色 ○特別展および企画展をそれぞれ年1回開催しています。
- 収蔵品は民俗資料を中心に現在約900点を数え、この他寄託資料として自由民権運動家・内藤魯一関係文書1,300点を収蔵しています。
- 1階「知立まつりコーナー」では、豪壮な山車が展示され、音響効果とビデオにより2年に1度の祭礼の様子を再現しています。



(以下次号)

「愛知の博物館」No.51

発 行 日 平成2年7月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

TEL <0561> 84-7474

FAX <0561> 84-4932